

Top

トップと語る

68

interview

アサヒフオージ株式会社



アサヒフオージ株式会社 代表取締役社長

朝日 浩司 氏

◎聞き手

十六総合研究所 取締役社長 高橋 義信
(対談日/2023年5月11日)

ASAHI Hiroshi

ASAHI FORGE CORPORATION

外部からの刺激に触れることを積極的に推奨しています。社員には世の中で起きていること、これから起きるであろうことを察知し、それに乗り遅れないために何をすべきかを考えられる人材になって欲しいと考えています。

アサヒフオージ株式会社は、1938年に創業し、今年85周年。“鍛造”と呼ばれる塑性加工技術によるものづくりの会社です。業界トップクラスの生産量を誇り、人の命を預かる重要保安部品を製造する当社は、高い品質と安定した生産力で多くのお取引先と信頼関係を築いてきました。また、労働環境の改善、IoTを活用した工場のスマート化への積極的な取り組みなど、前向きな挑戦を続けています。

今回はアサヒフオージ株式会社の名古屋本社をお訪ねし、代表取締役社長 朝日 浩司氏からお話を伺いました。

鍛冶屋で習得した鍛造技術で 「ベアリング」を手掛ける

— 1938年の創業からこれまでの沿革について
お話し願います。

●朝日社長（以下、敬称略） 創業者である祖父が農鍛冶屋で修業し、鍛造技術を習得したのち、1938年に名古屋市北区で朝日鉄工所を個人創業し、町工場の機械修理、戦時中は軍需品の製造をしていました。戦後になると焼け野原から鉄を拾ってきて、それを鍛錬して製品を作り始めたと聞いています。

最初に手掛けたのは「ベアリング（軸受）」の製造です。ベアリングは回転する部分がある機

器には必ず存在するため、現代では「機械産業の米」と呼ばれるほど幅広い製品で利用されています。自転車や歯車の部品として利用され始め、私が入社した1988年はオートバイ向けが非常に多かったです。

その後自動車の普及に伴い、マニュアルトランスミッション（以下、MT）車の部品を多く手掛けるようになりました。当時はオートマチックトランスミッション（以下、AT）車が高価で、MT車が多い時代でした。

また、それまで日本で生産し輸出していたオートバイを、現地生産に切り替え始めた過渡期でもありました。組立はどんどん海外にシフトしていきましたが、部品は日本で作るのが90年代後半までの主流でした。

それが2000年頃を境にオートバイの部品生産は全部海外にシフトしていき、自動車部品についても日本のAT車の比率が高くなってきたためMT車の部品生産を海外に移転するようになりました。現在ではオートバイの部品やMT車の部品はほとんど作っておらず、時代とともに事業領域を変えながら成長してきました。

一貫生産で高品質な製品の 安定供給を実現

— 現在の美濃市の本社工場が完成したことも大きな転機となりました。

●朝日 2000年8月に美濃市の本社工場が完成し、鍛造・熱処理・機械加工までを自社で一貫生産するようになりました。その当時は自動車のタイヤの軸であるホイールハブの需要が高まってきた時期でした。



十六総合研究所
取締役社長 高橋 義信



製品例

ホイールハブには回転させる部分と固定する部分があり、一つのタイヤに2個ずつ必要になります。つまり、1台の自動車に最低でも8個必要になるわけで、1万台の自動車の生産ですと8万個以上になります。鍛造用のプレス機は生産性が良いので、一つのプレスラインで月産20~25万個のホイールハブを生産できますが、需要が高まり、プレス機の台数が足りなくなりました。業界で心配されるくらい、積極的に設備投資をして、ものすごい勢いでプレス機を導入し、安定供給を実現してきました。

ホイールハブは人命にかかわる重要保安部品です。自社で一貫生産することで、高品質の製品を安定供給できるようになりました。お取引先と信頼関係を築きながら、現在では、自動車をはじめ、建設産業機械、農業用機械、航空機、列車などの機械部品の鍛造を手掛けています。

米国とインドネシアに 現地法人を立ち上げる

—— 海外進出された経緯をお聞かせください。

●朝日 米国に赴任し1999年から2001年までお取引先の米国拠点で研修を受けたのですが、米国市場では鍛造品のニーズが多くあることを知り、また当社の鍛造技術が十分通用すると思いました。帰国後にお取引先に当社から進



アサヒフォージ株式会社
代表取締役社長 朝日 浩司氏

出を提案しました。2002年に米国ケンタッキー州リッチモンド市に現地法人を設立し、2004年から2ラインで操業を開始しました。今の専務である弟が現地の社長を務め、当社からの駐在員は全員が30歳代でした。

20年前のケンタッキー州は工業が根付いていない場所で、コーン畑と牧場とウイスキーが産業の主体でした。そういうところで働いていた人たちが応募してくるわけですから、ものづくりを一から教えなければなりませんでした。

その後、現地のニーズが高まり、現在では合弁会社も含め3拠点、16ラインが稼働しており、来年にはもう1ラインの増設を計画しています。現地従業員も当初は20人ほどで始めましたが、現在は200人となっています。ありがたいことに創業当初のメンバーがまだ残っており、コアメンバーとして働いてくれています。

—— もうひとつの海外拠点であるインドネシアの立ち上げはいかがでしたか。

●朝日 インドネシア現地法人の立ち上げは2012年です。当時はリーマンショック後の世界不況で多くの新興国の経済成長率が陰りを見



熱間ローリング・プレス鍛造（複合鍛造）



ハブ・ベアリング

せる中で、内需主導の経済成長が堅調で政治的にも安定していたインドネシアが投資対象国として注目を集めていた時期でした。自動車関係のお取引先から「インドネシアに進出して欲しい」という依頼を受け、工場用地の購入を即決しました。投資熱の上昇からまとまった工場用地の確保が他では難しい状況でしたし、そのお取引先から現地での部品の納期を決められていたからです。実際、私たちの後ろにはたくさんの企業が工場用地の順番待ちをしていたようで、この決断は正しかったと信じています。

工場用地の確保後、海外研修制度を利用してインドネシア人の若い人たちに日本で研修を受けてもらいました。工場の立ち上げ時には、日本語の習得や当社との人間関係の構築などができており、現地で即雇用しました。インドネシア人は勤勉で平均年齢が低い国なので、将来の可能性を感じています。

人材育成と技術開発により 各拠点で高品質を維持

—— 海外2拠点、国内6拠点と多拠点展開されていますが、成功の秘訣を教えてください。

●朝日 各工場で高品質を維持する秘訣は、お取引先のニーズにお応えできる人材育成と時代に沿った技術開発に尽きます。コロナ禍や海外情勢など不安定な状況が続きますが、過去にも多くの困難を乗り越えてきました。どのような状況でも、人材の育成と将来を見据えた技術開発が肝要だと考えています。海外展開については米国とインドネシア以外は考えていません。資源には限りがあり、これ以上の人的資源の分散は当社では難しく、この2か国だけで充分成長は見込めると考えています。

—— 2023年4月に名古屋営業所を名古屋本社に昇格し、美濃本社との二本社制を導入された理由についてお聞かせください。

●朝日 一番の理由は、営業面において効率と機動力を上げるためです。当社のお取引先は関東・関西・愛知県三河地区がほとんどであるため、営業拠点を移したことで、お取引先との物理的な距離を縮めることができました。また、もう一つの理由として、営業・財務と



対談風景／アサヒフォージ株式会社 代表取締役社長 朝日 浩司氏（右）、
十六総合研究所 取締役社長 高橋 義信（左）



熱間ローリング鍛造



熱処理

もに名古屋の方が人材を獲得しやすいことがあります。

当社の成長戦略として工場のスマート化は欠かせません。それを支える人材の確保と育成はマストです。その一方で、技術系のみならず、営業・財務・人事管理を担う人材の充実も成長を図る上では同様に重要であると考え、名古屋にも拠点をおいて幅広い人材の獲得を目指します。

—— 経済産業省が定める「DX認定事業者」の認定を岐阜県の製造業で初めて取得されました。

●朝日 時代に乗り遅れないことが最優先です。現在は、ヒトの判断ばかりに頼らないものづくりをしていきたいと思っており、いかに人の勘やコツをAIで再現して自動化するかを考えています。また、必要最小限の人員で、最大のパフォーマンスを実現したいため、DXに取り組んでいます。

少子高齢化を迎えている現在、重量物の搬送作業等の労働環境の改善を図り、女性・高齢者・障がい者でも働ける環境にしなければなりません。そのためロボットやAIを活用した生産の自動化、IoTを活用した工場のスマート化は喫緊の課題です。時代は常に変わり、変化のスピードは以前とは比べものにならないくらい早くなっています。生き残るために今何をすべきかを考えています。

3Cを目標に労働環境を改善

—— 3K (汚い、危険、きつい) から3C (きれい、快適、カッコいい) への転換など、労働環境の改善にも早くから取り組まれています。

●朝日 私が当社に入社したのは35年前で、「ザ・3K」の工場でした。まず、自分と同年代の人がほぼおらず、若い人は入ってもすぐに辞めてしまっていました。従業員の平均年齢は50歳ぐらいで、当時の定年が55歳でしたから、10年たったらこの会社は無くなってしまわないかと思いました。

この労働環境を変えないと若い人が来ないという危機感から、当時社長だった父とは、職場環境や福利厚生制度の改善策をめぐって何度もぶつかりました。

3Kからどう改善するか考えたときに、「きれい、快適」は決まりましたが、もう一つの言葉が思い浮かびませんでした。ちょうど美濃工場ができたばかりで、近所の小学生が工場見学に来て書いてくれた感想文の中に、「働いている人の姿が"カッコいい"」という言葉がありました。これはいい!と思い、「きれい、快適、カッコいい」としました。海外に展開していますので英語で「きれい (CLEAN) ・快適 (COMFORTABLE) ・カッコいい (COOL)」の3Cを掲げました。

3Cはエンドレスな取り組みで、時間がかかり

新食堂完成時の美濃本社（パース図）



ます。従前の労働環境に比べれば、かなりマシになっているとはいえ、現代の若者に満足してもらえる環境にはまだありません。離職率の低下のためには、作業環境の改善のみではなく、心理的なサポートも必要だと考えています。例えば、猛暑日には手当を現金で支給するなどモチベーションが上がる取り組みもしています。また、美濃工場に新しい食堂を建設しています。過酷な環境で働いてもらっている従業員の「食」の改善も図っていきたいと思います。

社員の皆さんに知恵を出してもらい、外部からの指導も受けながら、永続的に取り組んでいきます。

—— SDGsへの取り組みについてお聞かせください。

●朝日 当社のこれからの担う若い社員に自分事として考えてもらうため、若い社員を中心としたプロジェクトチームを立ち上げ、ボトムアップ式で進めています。

環境面への取り組みは昨年、美濃工場に省エネ基準を満たし脱炭素につながる設備を導入しました。美濃工場に限らず、当社では従前から太陽光発電に取り組んでおり、また、工場内での熱源を利用した発電設備の開発にも取り組んでいます。

よそから学び、考え、 取り入れる環境を整える

—— 人材育成で大切にされていることについてお聞かせください。

●朝日 外部からの刺激に触れることを積極的に推奨しています。社員には世の中で起きていること、これから起きるであろうことを察知し、それに乗り遅れないために何をすべきかを考えられる人材になって欲しいと考えています。

我々のような製造業はどうしても自社のやり方が一番だと考えがちで、よそから学ぶことに抵抗がある会社が多いです。例えば、製造現場では昭和の時代と今とで、ものづくりそのものは実はそれほど大きくは変わっていないのです。ただ、今の世の中はIT化が進んだこともあって、やり方が多様化しています。それらを取り入れる意欲さえあれば、もっと楽になり、安全性が上がり、品質が良くなり、生産性が上がります。新しい便利な技術に目を向け、取り入れていけるような環境を作ることが我々の使命だと考えています。

当社では理系出身者だけではなく、文系出身者も技術系部門に配属し、社内で職場内訓練をしています。また、海外からの高度人材の採用にも積極的に取り組んでおり、フィリピンの大学を卒業した理系人材を3名採用しています。

コロナ禍で検討が途絶えていましたが、これ



岐阜スーパース、FC岐阜の
スポンサー、社内に空手道
部を立ち上げるなどスポー
ツ振興にも注力

からはインドネシアの従業員が日本に来ることも
あると思います。日本の大学を卒業したイン
ドネシア人が、現在インドネシア工場で品質管
理をしています。

現在の従業員はインドネシアが100人、米国
が200人、日本が700人なのですが、集団の中
で海外の人が3割を超えてくると会社の考え方
が変わってくると思います。社内公用語の英語
化も検討していかなければならなくなるかもし
れません。

社員が夢を持って 力強く前進できる会社に

— 今後の経営の中で実現したい事や夢などを
お聞かせください。

●朝日 漠然としていますが、良い会社にした
いです。良い会社とは、社員が働いていて幸せ
を感じられる会社です。そのためにどうあるべ
きか、考え続ける必要があります。社員の笑顔
を見るのが一番嬉しいですし、特に若い人たち

が将来夢を持てるような機会を与えていき
たいと考えています。当社はグローバルに展開
しているので、どんどん海外に出て行って世界
の流れに取り残されないように夢を持って仕事
ができるように仕向けていきたいと思いま
す。

当社のスローガンは「WE FORGE
AHEAD!」です。FORGE AHEADは力強く
前進するという意味があります。常に主語を
WEとして、社員一丸となって良い会社を作
っていきたいと思います。

— 本日は貴重なお話を聞かせていただき
ありがとうございました。

(対談日：2023年5月11日)



名古屋本社にて

会社概要

- 創 業 / 1938年1月
- 本 社 / 名古屋本社：名古屋市中村区名駅南一丁目24番30号 名古屋三井ビルディング本館 18階
美 濃 本 社：岐阜県美濃市楓台72-2
- 工 場 / 美濃工場・土岐工場・白鳥工場・真庭工場・扶桑工場
- 事業内容 / 自動車部品及び産業機械（建設機械、工作機械、航空機、車輛、風力発電など）部品の鍛造・熱処理・機械加工
並びに鍛造機付属機器の設計・製造
- 関連会社 / ASAHI FORGE OF AMERICA CORPORATION (AFA) PT. ASAHI FORGE INDONESIA (AFI)
ASAHI BLUEGRASS FORGE CORPORATION (ABF) NTA PRECISION AXLE CORPORATION (NTA)